

令和4年度 北区地域包括支援センター運営協議会議事録

1 日時:令和4年8月17日(水) 午後2時~3時30分

2 場所:北区役所 7階大会議室

3 出席者:10人(欠席委員2名)、傍聴人なし

4 議題

(1) 令和3年度 あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)の運営状況について

(2) 令和4年度 あんしんすこやかセンター事業計画について

【以下非公開】

(3) 特定事業所へのサービス集中率等について

(4) 地域包括ケアの充実のための事業目標(令和3年度)の評価および地域活動計画(令和4年度)について

【以下公開】

(5) 区運営協議会の見直しについて

5 当日出された主な意見および事務局回答

事務局: 認知症の相談が支援につなげていない事例も耳にする。

センターによっては、高齢化率が25%を超え、2025年問題に直面している地域もある。担い手と期待される世代は労働力としても期待される世代ともなり、地域活動が難しい。高齢者が高齢者を見守る現実は起きている。今後の懸念や実際課題となっている状況等を教えてほしい。

委員: 民生委員の立場より、老老世帯も見守り対象であるが、近所に親族がいる場合独居の高齢者の見守りを優先する。しかし、近所の親族からは「週1回訪問してください」と言われることもある。家族の力・見守りが1番でないかと考えるが、民生委員の見守り対象ではあるため、「家族の見守りを」と言うことが難しい。

行政のサービスを当たり前にするものだと考える人がいる一方で、もっとサービスを利用した方が良く、支援したいと考えるのに断られる人もいる。民生委員によっては熱心に抱え込む人もいるが、あんしんすこやかセンターに相談をし、あんしんすこやかセンターもネットワーク軽く対応してくれている。

委員: 北神管内からのオレンジチームの相談件数が少ない。北区全体としては、全市的に比べると相談件数は多い。オレンジチームへの相談経路はあんしんすこやかセンターからが原則となる。北本区においても、センターによって相談件数のばらつきはあるものの、利用件数は多い。一方で、北神は地域柄、「家でみる」という風潮もあるため、相談件数だけでは評価ができないが、利用件数が少ないため、初期相談から支援につなげるという流れを作ることができていないのではないかと考える。チーム員は地域の訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所からも参加しているため、チーム員に参加・活動することで地域への支援にもつながっている。北神にも困っている症例は多いかと考えられるが、ここ2年ほど現在のような状況が続いている。北神管内のあんしんすこやかセンター・オレンジチームとの連携状況はどうなっているのか。

事務局: (北神)あんしんすこやかセンター連絡会などを通して、オレンジチームの活用、また支援につなげていくよう発信していきたい。

委員: オレンジチームの話聞き、地域として何ができるか。

フレイル予防で地域の集い場を運営中。集い場に足を運ぶことができる人たちは元気であるが、1年も経つと通うことが難しくなったり、毎回「こんなところ始めてきた」と言われる人もいる。地域ボランティアが変化に気づき、あんしんすこやかセンターに相談をつなげている。地域としてはちょっとした気づきの観点をもつことしかできない。

コロナ禍以前はオレンジカフェの運営も行ってた。妻が夫の相談のために夫婦で来所し、相談につながるような場ともなりつつあった。波にのって来たところでコロナ禍となってしまった。何とか復活させることができないかと検討しているが、手立てがない。フレイル予防の集い場に来ている人をオレンジカフェに誘うことは差別になるのではないかと考えらえる。現在できる対応としては、認知症など何か気なる人をあんしんすこやかセンターに相談することしか手立てがない。

委員： その対応でよい。オレンジチームはあんしんすこやかセンターなど関係機関からの相談に対応している。ケアマネジャーがついている人はケアマネジャーへ、ケアマネジャーがついていないかどうかは分からなければあんしんすこやかセンターに相談してもらったらい。そこからオレンジチームへの相談につながる。

委員： 防災について、要援護者の数・実態をどう把握するのが課題である。把握することが難しい現状のみで、どうするのかの議論がすすんでいない。行政として、全体的に把握する仕組みづくりが必要ではないか。数・実態を把握することで、災害時にヘルパー事業所より〇人ヘルパーを出してほしい、などの動きにつながる。

新型コロナウイルス感染症の対応においても、自宅療養中の高齢者の介護の担い手が必要な状況がおきている。高齢者がどれだけいるのか、どれだけヘルパーを利用しているのかという数を事前に把握・準備しておく必要がある。有事の際に、事業所に突然支援の要請があっても突然の対応は難しい。

個々のケースは個々で対応していくが、全体の数を事前に把握し、有事の際の支援体制の仕組みづくりが必要ではないか。まずは区単位からでも取り組めないか。

事務局： 行政の情報、あんしんすこやかセンターが持っている情報、関係機関が持っている情報をどこまで共有できるのか、誰が共有できるのかは検討していかなければならない。神戸市役所も課題は認識している。区でも今後の対応の在り方を検討していきたい。